

りたど家康さういふさ智將もせよ十方お是ら
ぬ集智とり知してゐるわあ自の徳幸と銘り百方
石の傾斜と様あつて（きき思ひしよぬ所なり
形計の辨りく幸忽ち出るぞうと家康一
生の不覚からいゝ志くれとも味方の将士四法を
と破り又いふとわあなりにおゐてゝ孫政父お
もろくうゝは若く今のおく余遂に十方なり又いふ
りやふも賞状付道と高ううわえり徳人か
へとわあて是といふと未だの城を世に山城と
急張りり抑合陣進まに口なり一は二野と陸

奥との堺の明神より今度とすなりとなく其間
小白川の城長沼の城なり市田上徳外徳陣を著
其城を守て長沼より智玉臺とて背矢の山中
お十所なりうゝなりき正なり其より山に小
やとていふ徳陣後の海面をとりうゝ小なり
海して今陣の目の下なりせなりなりのお名を
とて這坂とて城山の徳頂のなりうゝをいふと上格
をうけり石なりをとりけ又白川長沼の海に小
た穀右穀とて名前あり形をとりく切なり
なりと今徳に下知せりこれに徳還返ぬなり